

2020年4月

【月報】

畜産人材育成研修がスタートしました

4月8日に当センターにおいて、畜産人材育成研修第1期生1名の開講式を行い、研修がスタートしました。

本制度は、畜産経営の担い手が減少する中、幅広く就業・就農者を確保し、後継者として育成するための研修制度で、2年間の講義や実習により畜産経営の担い手として、基礎力、実践力、経営力を身

につけ就農を目指します。

第1期生は、丹後地域において肉用牛繁殖経営での就農を目指しており、当センターでは、円滑に就農できるよう、畜産関係団体と連携し、職員一同全力で支援します。

畜産センター



決意と意気込みを語る研修生

【管内情報】

春本番 牛たちが放牧場へ

牧場では待望の春を迎え、畜舎で長い冬を過ごした家畜たちの草地への放牧が始まりました。

4月23日、小雨が降る中、14頭2群の牛が職員の誘導で、2か所の放牧場へ駆けながら向かい、これからの数か月間、のびのびと草を食べながら過ごします。

草の生育に合わせて放牧する頭数を順次増やし、牧歌的な風景で府民に憩いと癒やしの機会を提供することとしています。



放牧場へ向かう牛たち

碓高原牧場

京都酪農「牛づくり」事業の乳用育成牛を導入

畜産センター（綾部及び碓高原牧場）では、府内酪農家の乳用牛を増やし、作業を省力化するため、全国農業協同組合連合会京都府本部と連携して乳用後継牛育成事業を実施しています。

4月6日には、酪農家の育成牛10頭（9～14か月齢）をJA全農京都哺育センターから碓高原牧場に導入しました。

今後、碓高原牧場の広大な放牧地で足腰を鍛え、確実に受胎させた乳用育成牛を後継牛として酪農家に供給していきます。



JA全農京都哺育センターで
輸送トラックに積み込み



碓高原牧場へ導入

碓高原牧場

府内の乳用後継牛育成のため飼養管理技術を支援

京都府では、令和元年度から府内の生乳生産量確保と酪農家の労働負担軽減を目的に、JA 全農京都哺育センターと碓高原牧場の牛舎を活用して、将来の搾乳牛を育成する事業を実施しています。

4月9日には、JA 全農京都、中丹家畜保健衛生所、飼料会社等と協力し、牛房の消毒を行うとともに、今後の飼養計画について協議を行いました。

当センターでは、引き続き、関係者と連携し、農家からの導入牛の体型測定をはじめとした飼養管理技術支援を行い、府内酪農家をサポートすることとしています。



今後の飼養管理等について現地で協議



消毒後の哺育牛舎

畜産センター